

## 令和2年度第2回長南町まちづくり委員会会議録

令和2年8月24日  
庁舎分館第1会議室

出席者：委員11名  
事務局：企画政策課4名  
欠席者：委員2名

### 会議次第

1. 開 会
2. 町長あいさつ
3. 議 題  
(1) 長南町第5次総合計画の策定状況について  
(2) その他
4. 閉 会

事務局：長南町第5次総合計画策定にかかる進捗状況について説明  
【資料 長南町第5次総合計画策定にかかる進捗状況】

長南町第5次総合計画（案）の序論、基本構想について説明  
【資料 長南町第5次総合計画（案）】

会 長：事務局からの説明いただきました内容を含めまして、何かご質問等ございましたらよろしくお願いたします。

委 員：まず、アンケートを実施した時は、まだコロナウイルスの関係は騒がれていなかったが、7月15日のワークショップで移住者や若い人たちに意見を聴いた際に、どんな意見が出たのか。

次に、長南町は住みにくい理由として、買い物するところが無いというのが90%だが、どういった事業を盛り込んでいくのか。

3点目に、先ほどサテライトタウンという話が出たが、今後東京に本社を置いて長南町で仕事をするなど出てくるかもしれない。空き家対策は今回の施策にも入っているが、企業に使ってもらうための施策を盛り込むことができるのか。

事務局：1点目のワークショップについて、まず、7月時点で仕上がっていた部分の基本構想の説明を行った。その後、今後の長南町について意見交換を実施した。その中で出た意見として、交通の面を充実させて欲しいという意見や、関係人口を増や

すことが人口増につながるのではないかという意見もあった。また、空き家や耕作放棄地のマッチングの仕組みができれば良いのではないかというような意見があった。

2点目の買い物に関するアンケート結果に対する取り組みについては、非常に難しい問題だと考えており、一番良いのはスーパーやコンビニが町内にできることだが、これについては、民間企業が採算をとれるという考えのもとに進出することが通常の流れとなる。今後の具体的な内容としては、なかなか難しいが考えの1つとして、国道沿線やインターチェンジ周辺、工業団地周辺など交通量が増えつつあるエリアの土地利用について、民間企業が進出しやすくなるような施策を検討していくということが考えられる。

3点目の質問のリモートワークが増えてきている中、空き家対策の施策の中で会社に利用してもらうような施策が可能かどうかという主旨だと思うが、こちらについてはいろいろな取り組み方の1つとして、通常空き家対策では一般の方が住まいとして移住するという事になるが、空き家をサテライトオフィスとして会社に借りてもらうということや、空き家だけでなく空き店舗や空き地なども、町でデータベース化するなどできるだけ把握して紹介していく仕組みを構築するなどが考えられる。

委員： 空き家対策として今のような施策を実施しているが、マッチングを担当する部署が無い。建設環境課が担当でやっているようだが、他にいろいろな仕事があり、担当もよく分からないような状況である。今の町の空き家対策は、ただネットに取り上げているだけで、実際に移住したい人が来た場合、きちんと話ができる担当者がいない。人的にきちんと対応できる配置にしないと、近隣の市町村に移住希望者が流れてしまう。ただ計画を作るだけでなく、マッチングができる人、説明ができる人の配置が必要だと思う。

委員： 現状分析が正しいとは思えない部分がある。例えばコミュニティの部分では、町内全域でコミュニティが残っているわけではない。今でも町内全域でコミュニティが残っているという前提を進めると計画自体がおかしくなってくる。現状分析を正確に行うことが必要だと思う。そのうえで具体的な施策をたてていくことが必要になる。

事務局： 今一度、現状分析を正確に行い、より現実的な施策を考えていきたいと思う。

委員： まず1点目として、33ページの独自推計について、いろいろな施策を実施することで社人研推計よりも人口増となっているが、具体的にどういったことをやった場合に、人口増につながると考えているのか。

次に社人研が2045年の市町村将来推計人口を出しており、鉄道のある長生村と一宮町ではあまり下がらないが長南町は下がるという推計となっているということについてどう考えているか。

また、今年区長会長だが、小学校の PTA 会費や後援会費などいろいろな問題がある。世帯数の減少や、農業人口の減少による担い手の減少などを補えるかという点と難しい。人口減少が、こういったところに歪を生じさせるのか分析することが必要だと思う。

事務局： 1つ目の33ページについて、5年前に実施した独自推計の考え方としては、合計特殊出生率を2040年までに1.8まで上昇させる係数をかけている。そのために、子供が増えていくような施策を実施していくという考えにより、H28に「長南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画を策定した。この計画は人口減少対策と町の活性化に重点的に取り組むための計画となっており、その中で子育て環境の充実や産業、雇用の強化など取り組んでいる。実際に取り組んで5年経過したが、現状はなかなか難しい状況となっている。現在新たな推計を推計中となっているが、今回については夢を描くような数値ではなく、現実を見据え、持続可能なまちづくりができるような数値設定を考えている。

2つ目の他市町村の推計について、一宮や長生村は鉄道があるために減少率が緩やかだということだが、長南町については鉄道等がある市町村に比べて交通利便性について問題があると住民アンケートに表れていることから、人口推計の数値に表れてしまうことになる。そういった中でも、現在のコロナウイルス等の影響により、都市部から農村部に移り住みたいという問い合わせが増えているため、そういった方々をできるだけ取りこぼしなく移住してもらえるような取り組みを考えていきたい。

事務局： 補足となるが1点目の独自推計の、合計特殊出生率は1人の女性が生涯に産む子供の推定人数となる。先ほど2040年に1.8まで上昇させるということで、社人研の2040年の推計値5,166人に対して、地方版総合戦略にて様々な施策を実施することで独自推計の5,582人にするということであった。第2期人口ビジョンについては現在推計中で、行政としては通常、目標値については上方修正した数値を用いることが一般的だが、町長との打ち合わせで目標人口というのは、今後の町の様々な施策の中で重要なフレームになることから、現実を見据えた数値で推計している。

今回の総合計画の一番重要な部分として、36ページ、37ページの各課所管の具体的な個別計画を掲載した。総合計画の具体的な内容については、各個別計画に詳細に記載されることになる。

昨年度大きな災害があったことから、全国レベルで国土強靱化地域計画を策定している。そういったことから3ページの総合計画の位置づけの図で国土強靱化地域計画を最上位に近い位置づけで記載している。また、まち・ひと・しごと創生総合戦略が第2期に入るということで、4ページで説明している。その他計画についても、来年度からの計画がある。こういった計画は今まで明確に位置付けられていなかったが、第5次総合計画では、総合計画の下にぶら下がる計画として事業内容を明確に明記することになる。こういった各個別計画を掲載する作り込みが、現在

の総合計画の全国的なトレンドとなっている。

委員： 8月1日に一宮川水系の浸水対策意見交換会があり、現在、下流部から順に工事を実施しているということだったが、そういった事も国土強靱化地域計画に掲載されるのか。

事務局： 総務課から聞いている内容としては、河川関係の中の1事業となるため、詳しく記載してある項目は見受けられなかった。しかし、国土強靱化地域計画については、災害は単一市町村で乗り切れるものではないため、睦沢町が中心となって長柄町、一宮町、長生村の5町で策定している。作り込みについては、全体計画とそれぞれの町村の個別計画ということになる。一般論的な河川の関係の記載はされると思うが、先ほどの個別の事業内容については分からない状況となるが、こういった意見があるということは今後発言して頂ければ反映可能だと思われる。

委員： 15ページからのアンケート調査について、各年代の人数については同程度の人数を抽出したのか。

事務局： アンケートについては無作為抽出の18歳以上の1,200名に調査を実施したため、必ずしも年齢層が均一になっているわけではない。回答者の年齢層別の人数については、1,200名にアンケート調査を実施し491人の回答となっており、その内訳は10代2.4%、20代7.3%、30代14.1%、40代15.3%、50代12.8%、60代25.3%、70代以上22.4%、無回答0.4%となっている。

会長： 私見となるが、長南町は住民からの提案を大切にすまちなというようなかたたちが良いのではないかと思う。トヨタ自動車の例だと、現場から改善提案をすることができ、それを反映することで改善してきた会社である。それと同じように、時代によって住民の要望も変化することから、長南町は住民の話を良く聞くまちとして、実施計画においてもそれを反映できるまちを目指せば良いのではないかと個人的には思う。

委員： 以前、市原市の職員の募集では1週間程度職員からレクチャーを受け、人口減少に対するプレゼンテーションをさせるという事を採用段階で実施していた。今、武田委員が言ったように、住民だけでなく役場の職員からも、どんどん意見を出していくような環境でないと、町に活気を生み出すことはできないと思う。そういった環境が役場内にあるのかどうかお聞きしたい。

事務局： たとえば、今年度地域おこし協力隊が、空き家の関係について現場で聞いた内容をできるだけ町長にそのまま報告している。

今後長南町だけでなく全国的に過渡期に入る。我々の世代と若い世代では、職員も含めて考え方、受け取り方が違うように思うので、そういった新しい考え方も取

り入れて、できるだけ役場の中の風通しの良い雰囲気を作っていきたいと思う。

委員： 今後の会議の予定を見ても、課長級、補佐・係長級の会議しかない。それより下の職員には、どうやって計画を浸透させていくのか。実働部隊がどういった事を考えて、感じているのかを分かっていないといけないと思う。課長や係長も大事だとは思いますが、その下の職員も参画した計画が大事だと思う。この会議の予定を見ると、上の職員が勝手に決めたというような印象になってしまうと思う。

事務局： 今日たまたま若い職員の意見がどう反映しているのか、隣の課を見た時、先週開催した課長級の会議の内容を、補佐が下の課員に見せていた。担当課長の考え方によるところも大きいですが、先週の会議の意見照会については、来週までとなっていることから、きちんと回覧して下の職員の意見を求めていた。課長や補佐の考え方や性格などによっては、意見を言いにくい課もあると思うが、若い職員からの意見を踏まえた中で、各課から意見があがってきていると考えている。

委員： 去年の災害の時、停電により発電機が無くて困った。その時は発電機を順番に利用することで対応したが、今後また災害が起こった際に、その程度で済むのかどうかということまで考えなければいけない。また水害に関しては、津波については町内の低い地域でも海拔が20m程度なので心配は無いと思うが、河川については水がきちんと流れるようにしておかなければならない。県の河川については県が対策し、それ以外の河川だけ町が対策すれば良いので、町の部分についてきちんと話し合えば良いと思う。

若い人たちが町外へ出て行ってしまうのは、子育て環境や交通が整っていないからではないと思う。実際、保育所、幼稚園があり、子育て環境は整っている。私たちの世代の考えでは、鉄道が無く交通の便が悪いから出て行ってしまうと考えているが、実際は地域の役員や行事などが嫌で出て行っているように感じる。

小湊鉄道が高速バスを運行していて驚いたのが、茂原で乗ろうとすると駐車場料金を払わなければいけないが、長南で乗ると駐車場料金がかからない。だからみんな長南で乗って東京神奈川に高速バスで行っている。こういった事を今後考えていかなければならない。

これからの時代は、大型ショッピングセンターができれば良いのではない。小口の商店についても今は問屋がないため商品を卸してもらえない。これからの時代は、コロナの影響もあり、インターネットで個人の家へ配達してもらう時代になっている。こういった先端を長南町が進んでいけるようなまちづくりをしていけば良いのではないか。

先ほど委員さんから出た、役場職員の能力の問題については逆に、100人程度しかいないのに、みんなで工夫して色々なことを実施している。これほど大変な能力が必要なことは無いと思う。学歴とかではなく、自分の仕事をきちんとやって、行政を回して、上手くコントロールしていると思う。

事務局： 災害の関係やバス停の関係などありがとうございました。今頂いた意見を含めて計画を策定していきますので、よろしくをお願いします。

会長： 次に議題（２）その他について、事務局から何かありますか？

事務局： 今後のスケジュールについて、  
・ 10月15日（木）13：30～ 第3回まちづくり委員会  
・ 11月19日（木）13：30～ 第4回まちづくり委員会  
の予定となり、後日正式な開催通知を郵送します。

会長： 以上で、本日議題は終了となります。皆様ご協力くださりましてありがとうございました。

事務局： 会長ありがとうございました。  
以上で、令和2年度第2回長南町まちづくり委員会は、終了させていただきます。  
ありがとうございました。

閉会